

## ▼起業家file.006 古田弘二さん

株式会社JTL 代表取締役

♡ペットシッター「愛犬のお散歩屋さん」♡

(プロフィール概略)

1942年岐阜県大垣市生まれ。父が動物好きで幼少より動物と触れ合いながら育つ。法政大学卒業後、カネボウに入社、モーレツ社員として全国を駆け回る。53歳で早期退職の折り、職場の仲間からプレゼントされた愛犬「クッキー」が、その後の古田さんの人生に大きく影響することに…。

①「クッキー」との散歩途中に、偶然犬の散歩を頼まれたことがキッカケで、「愛犬のお散歩屋さん」というペットシッターのビジネスをスタートする。②著書「僕の名はクッキー」を出版したら全国からFC加盟店希望者が殺到した。③現在は2代目クッキーであるが、クッキー親子は常に古田さんの仕事&家庭の心の支えとなっている。

### ●起業の決断は一

**始めは犬の散歩をしながらチラシ配り...そして、会社設立、マスコミ出演多数、本出版、FC展開スタート。**

それから「愛犬のお散歩屋さん」のチラシを作って、毎日散歩をしながら、犬を飼っている家にポスティングするようになりました。すると、ポツポツと電話依頼が増え始めたんです。

54歳「ペットシッター」という新しい仕事に、家内も大賛成してくれて会社としてスタートしました。「好きなこと、やりたいこと、世の中から必要とされていること」、まさに私の天職のようなビジネスだと興奮する毎日が続きました。また散歩だけでなく、犬の躰の依頼も次第に増えて、サービスの付加価値が充実していくのを実感しました。

そんな折、ペットブームの時代到来で、TV・新聞・雑誌など、次から次へ取材・掲載していただいたことと「僕の名はクッキー」を出版できたことで、知名度も上がり、散歩依頼だけでなく、全国から加盟店になりたい方が尋ねて来られたのです。



証券マンから

犬の散歩代行業

山岡誠さん(64) □



証券マン時代の山岡誠さん

## 開業した妻まぶしくて自分も

横浜市の山岡誠さん、美知子さん夫妻(ともに64)が犬の散歩代行業を始めたのは、妻の発案だった。パートの洋服売り場でパート社員として働いて

た頃、テレビでこの仕事を知った。子ども2人が成人し、パートでは物足りず、「自分で商売してみたい」と考えていた。

秋田犬やシェパードを飼っている。数十万円の加盟料を納めれば、店の運営ノウハウやペットの専門知識を学べるという。「私にもできるかもしれない」。夫の心配をよそに、美知子さんは準備を進めた。小型犬を世話したことがなかったため、自宅でチワワを3頭飼いはじめた。ペットを飼う人が多そ

うな高級住宅街の近くに引

は土に埋めずに持ち帰り、**お風呂も歯・壁にさせないよう!**  
飼い主様 お願い!!



愛犬が楽しみにしている日課の散歩が、

**飼い主様のご都合で出来ない。  
忙しくて時間が取れない。  
体調がすぐれない。  
週に何回か、代わりに散歩して欲しい。  
冬場は足元が悪くて大変。**

そんな時は、飼い主様に代わりワンちゃんとの散歩をさせていただきます。

**愛犬のお散歩屋さん**  
お留守時の愛犬を格安で御世話します  
基本的名取 犬大敷少代行 TEL0422-60-7566  
犬の矯正 FAX0422-60-7567  
食事・散歩等々  
株式会社 JTL 武蔵野市  
代表取締役 古田弘二  
副代表取締役 古田美知子  
代表取締役 古田美知子  
代表取締役 古田美知子

つ越し、2001年に「愛犬のお散歩屋さん 横浜駅前店」を開いた。開店してからはトントン拍子。近所でビラ配りをすると、数日後に中年の女性から注文が入った。最初の月からパートのこの月収を超えた。依頼をこなすため、生まれて初めてバイクに乗った。

証券会社で不遇をかこっていた誠さんには、走り回る妻がまぶしく映った。ペットの研修会に通い、退職を機に手伝い始めた。犬と歩くと、証券マン時代とは違う景色が見えた。散歩しながら趣味の俳句を

一句ひねる……。『ごういろうのもまんざらでもないなと、気づきました』

2人態勢になり、事業はさらに軌道に乗った。月20万円だった売り上げは、30万円、40万円と増えた。依頼が途切れず、毎日通うお宅もある。旅行シーズンの年末年始は一番忙しく、子どもたちが集まる山岡家の新年会は1月末にずらしてある。「体を壊すひまもありません」と美知子さんは笑う。開業した当時、2人は52歳。「65歳までやろう」とがんばってきたが、いまは目標を70歳にのぼしている。(牧内昇平)